

タイルは、日常美を創造する。

Tiles create everyday beauty

明治時代初期、外国人建築家が設計する西洋建築で輸入タイルが使われ、やがて、それを手本に製造が始まった国産タイル。敷瓦、壁瓦、化粧煉瓦(れんが)など、さまざまな名称で呼ばれていた建材が「タイル」と名称統一されたのは1922(大正11)年のことだった。岐阜県多治見市では本格的にタイルの生産が始まり、1935(昭和10)年頃からはモザイクタイルの生産が始まった。戦後の経済成長とともに広がり、庶民の生活に溶け込んでいった。建物の水回りや内壁、ビルの外壁など、さまざまな空間を彩るタイルは、「美と用」の特性を合わせ持つマテリアル。日本の暮らしと密接に関わる、タイルが創造する日常美を探ってみた。

